

ほとけごぜんやしきあと ほとけごぜんはか
仏御前屋敷跡・仏御前墓

種別	小松市指定文化財 史跡
指定年月日	昭和38年11月3日
所在地	原町

仏御前は永暦元年(1160)、白河兵太夫の娘として原村(現在の原町)に生まれた。幼少の頃から篤く仏教を信仰していたことから、「仏」と呼ばれた。絶世の美女で歌舞に優れており、14歳のときに叔父の白川兵内をたよって京に上り、白拍子となった。美貌と優れた演技で大きな名声を博していた仏御前。

やがて平清盛にみとめられ、その屋敷へ上がる。当時清盛の屋敷では祇王という白拍子が寵愛を受け、仏御前を清盛に引き会わせたのも祇王であったが、やがて清盛の寵愛は仏御前へと移っていく。悲しんだ祇王は母・妹とともに出家し、嵯峨野へ移った。

一方の仏御前も、祇王を思い、栄枯盛衰のむなしさを悟り、祇王の後を追うように出家する。報音尼と称して祇王らとともに仏道に精進した。仏御前が17歳の時であったという。後に仏御前は故郷の原村に帰り、小庵を結んで余生を過ごし、寿永3年(1180)に21歳で亡くなったという。

仏御前が庵を作って住んでいた所は「御前様屋敷」といわれ、現在は仏御前を偲んで三基の供養塔が建っている。

